

平均滞在日数

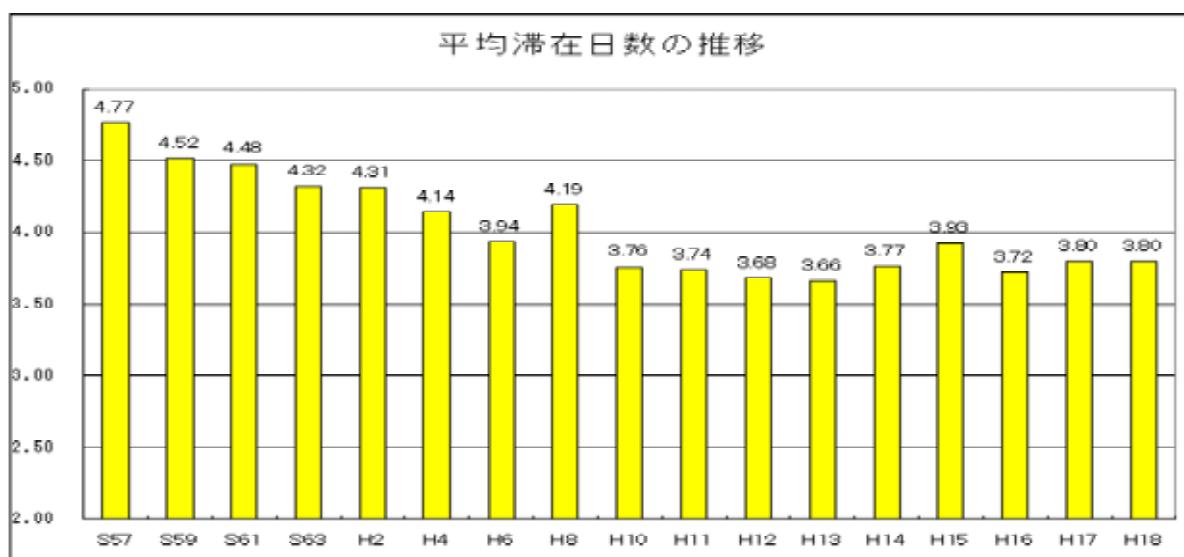
本県を訪れる観光客の平均滞在日数は横ばいの傾向にある。平成18年度は3.80日であった。

滞在日数別の内訳は、以下のとおりである。2泊3日の比率が最も高く、41.3%となっている。

平成18年度

・日帰り	1.2%	(平成15年度)	1.0%
・1泊2日	12.1%	(同)	9.7%
・2泊3日	41.3%	(同)	40.6%
・3泊4日	29.3%	(同)	33.4%
・4泊5日	9.2%	(同)	8.9%
・5泊以上	6.9%	(同)	6.4%

体験滞在型観光メニューが増えてきており、また、離島観光の人気も高まってきているが、平均滞在日数は伸び悩んでいる。平均滞在日数を伸ばすことは、観光客一人あたり県内消費額を伸ばすことにもつながる。そのため、これまでのエコツーリズムの推進等のメニューに加え、アフターコンベンションの充実等、新たなメニューの開発が望まれる。



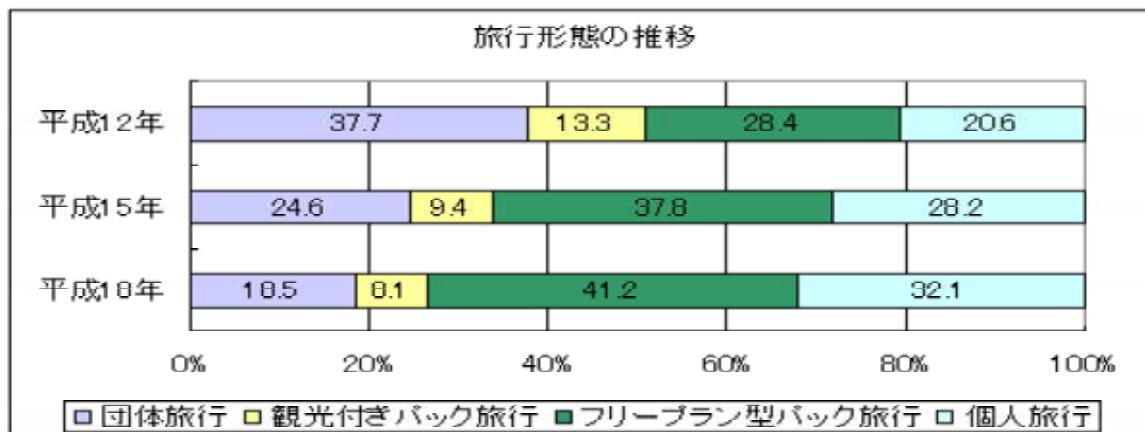
資料：観光統計実態調査

旅行形態

リピーター率の増加に伴い、「団体旅行、及び観光付きパック旅行」(添乗員付きでスケジュールのほぼ決まった旅行形態)が減少し、「フリープラン型パック旅行、

及び個人旅行」(自由にスケジュールなどが組める旅行形態)が増加している。要因としては、旅行目的や旅行商品の多様化、旅行商品流通経路の高度化等もあると思われる。

「フリープラン型パック旅行、及び個人旅行」は、平成18年においては73.3%となっている。



資料：観光統計実態調査

旅行目的の推移

平成18年度の本県における活動内容は、年間を通してみると、「観光地めぐり」などの周遊型観光が最も多くなっているものの、夏場については、「海水浴・マリンレジャー」が一番多くなっている。また、「ショッピング」「沖縄料理を楽しむ」及び「保養・休養」の活動も、選ばれる比率が高くなっている。

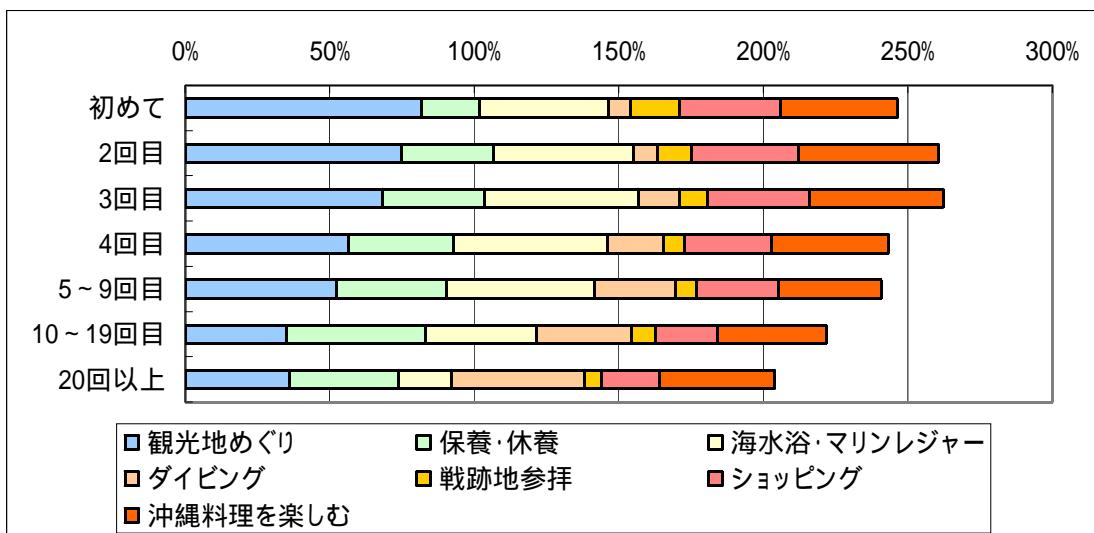
旅行内容別シェアの変化

	平成12年	平成15年	平成18年
観光地めぐり	73.7	72.1	68.4
戦跡地参拝	19.8	16.3	12.2
海水浴等	28.5	34.1	27.4
マリンリゾート	17.1	3.1	7.9
ダイビング	9.3	8.7	16.8
保養・休養	22.2	17.6	3.8
スゴバーチューステム	-	-	4.4
釣り	4.8	4.1	1.9
キヤノンツアーピング	2.9	1.7	0.6
エシシャンツーピング	0.8	0.7	1.4
沖縄料理を楽しむ	33.0	44.4	33.4
新婚旅行	-	-	38.8
工事出張	-	1.3	1.5
会議出席	-	1.3	2.1
ベント・伝統行事	9.8	6.6	6.4
仕事旅行	4.0	4.0	4.6
帰省	8.0	11.0	11.6
その他	1.8	1.5	1.7
親戚訪問	1.0	6.3	6.6
その他	3.9	4.9	3.6

複数回答

資料：観光統計実態調査

また、リピート回数が増えるにつれ、ダイビング客の割合が高くなっている。



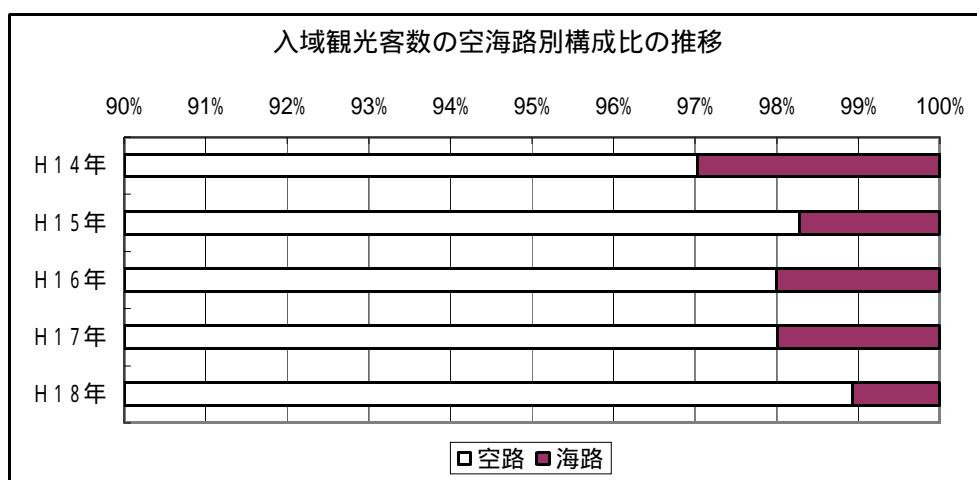
資料：平成17年度観光統計実態調査

ウ 航空路線

観光客が本県を訪れる際の交通手段

観光客が本県を訪れる際に利用している交通手段としては、空路が圧倒的に多く、航空路線の拡充や航空運賃の低減などにより、さらに空路の占める割合が増加傾向にある。

平成18年においては、空路による入域観光客数は全体の98.9%に達している。



資料：沖縄県観光要覧

国内航空路線の推移

県外から本県への航空路線は、平成18年度には34路線まで拡充されている。また、主要路線を中心に増便等により提供座席数が増加しており、入域観光客数の増加に貢献している。

期間運航等を含む。

資料：沖縄県交通政策課

国際航空路線の推移

沖縄と海外を結ぶ国際航空路線は、平成19年12月31日現在、台北、ソウル、上海の3路線となっている。

マニラ路線は、平成19年8月から運休となった。

国際定期航空路線の推移

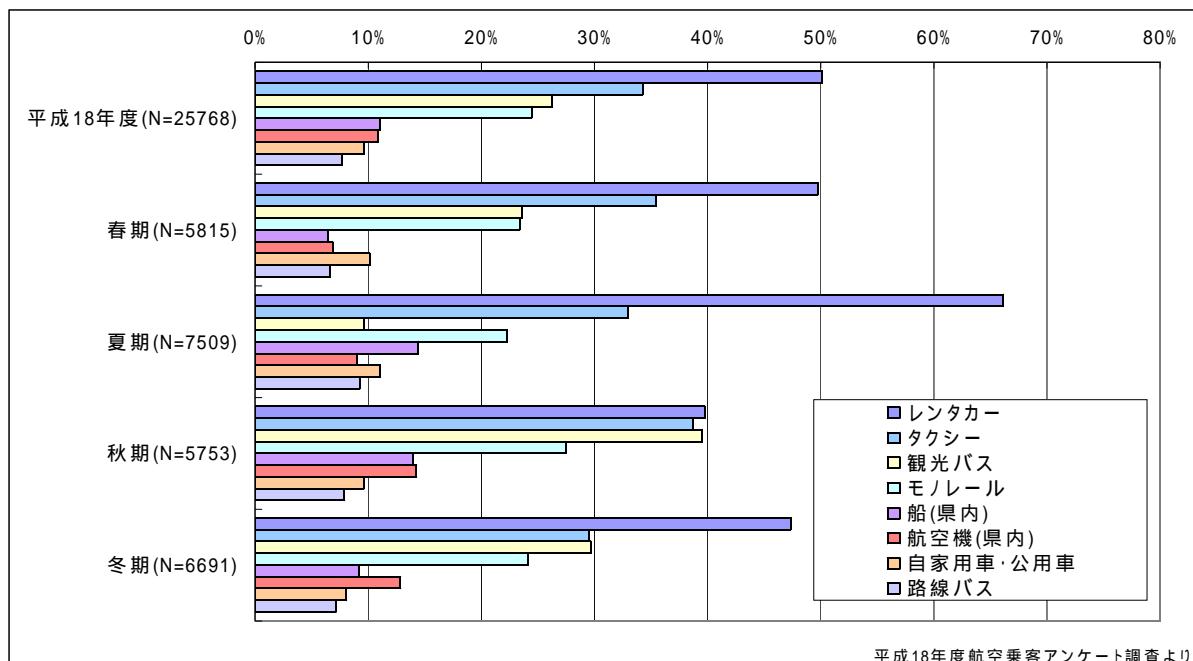
	台北	ソウル	上海	マニラ	香港
10年	週21便	週3便	-	-	週2便
11年	週21便	週3便	-	-	週2便
12年	週21便	週3便	-	-	週2便
13年	週21便	週4便	週2便	-	週2便
14年	週14便	週3便	週2便	-	週2便
15年	週14便	週3便	週7便	週4便	-
16年	週14便	週3便	週7便	週4便	-
17年	週14便	週3便	週5便	週4便	-
18年	週14便	週5便	週2便	週4便	-
19年	週14便	週7便	週2便	-	-

便数は、毎年とも12月31日現在を基準としている。

資料：沖縄県観光企画課

工 県内陸上交通機関

平成18年度に観光客が滞在中に利用した交通手段としては、レンタカーが約半数に達しているが、路線バスの利用率は低くなっている。また、観光バスの利用率は季節変動が大きくなっている。



複数回答

レンタカー

本県を訪れる観光客が最も利用している交通機関がレンタカーであり、登録台数などは、年々増加傾向にある。しかし、利用単価については、依然、減少傾向にある。

